

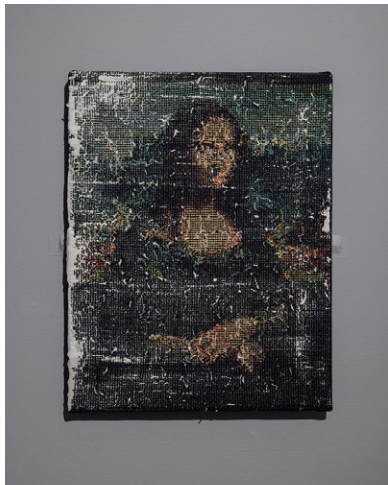
2023年度コレクション展Ⅱ 小企画 美術の中のかたち—手で見る造形

# 遠藤薫 | 眼と球



兵庫県立美術館では、「美術の中のかたち—手で見る造形」と題する展覧会を、前身の兵庫県立近代美術館時代の1989年から継続して開催してきました。作品に触れて鑑賞できる本シリーズは、視覚に障がいのある方にも作品をより楽しんでいただくこと、視覚に重きをおいてきた美術鑑賞のあり方を再考することを目的としています。

33回目となる今回は、主に染織技法によって制作を続ける遠藤薫(1989-)の作品を展示します。本展で遠藤が取り上げるのは、何かか「生まれていく」過程それ自体です。展示される品々は、美術作品や人間、ひいては生命の誕生について、私たちに問いを投げかけます。



### 落下傘からキャンバスへ

古くなった衣服を布巾や雑巾に仕立て直すように、布は、何かに使われ擦り切れた後にも、その布の痕跡を残したまま新しい何かとして使われることができます。今回の展示では、かつて遠藤が仕立てたジュート麻の落下傘が、キャンバスとして生まれ変わっています。

使われているジュート麻は、神戸で最も古くから麻の事業を続ける会社の協力のもと入手したものです。スパイスの輸送用の袋として用いられていたその布は、今でもかすかにその香りを残しています。遠藤は、こうした神戸ゆかりの布を、まず上昇と下降の拮抗を象徴する落下傘の形に縫い直しました。今回遠藤は落下傘をキャンバスに仕立てるにあたり、自ら作った画材などを用い、一部に下地を塗布しました。触ることで分かる布地と絵具の質感は、視覚で鑑賞することを前提とした油絵という芸術を生み出すときには、まず最初に布というモノが必要であるという事実を再認識させます。

### 刺繍の裏側

作家がかつて青森の地で偶然に手に入れた、ある女性による刺繍画。作家はここで、西洋や日本の名画を再現した数々の刺繍の裏側を見せています。表面のイメージに注目するだけでは意識しがたいその裏側は、様々な糸がダイナミックに行き交い、かつてそれを縫った人の腕の動きまでも想像させるほどです。裏面の糸を注意深く触り辿っていけば、見えているものの背後に隠れた、それを生み出した人の営みが浮かび上がります。

### 何かか生まれていくこと

人間の赤子は、視覚よりも触覚や聴覚などの感覚の方が先に培われます。誰もが見えない世界を経験するならば、目が見えないことが障がいとみなされ始めるのは、一体いつなのでしょう。展覧会の準備期間の中で出産を経験した遠藤は、本シリーズの趣旨とも呼応して、視覚に障がいのある、妊娠・出産を経験した方にインタビューを行いました。自らの経験について語るその声の数々は、女性を巡る様々な社会的状況と、そこに必ず存在する生々しい生の感触をかたどっています。





## 本展について

触って作品を鑑賞することによって、美術作品やその鑑賞における視覚のあり方を再考してきた「美術の中のかたち―手で見る造形」展。

一方、そもそも展覧会にもある美術とはどのようにして生まれるのでしょうか？ 一体誰が、どの時点で、生まれてきた何かを美術として名付けるのでしょうか。

このような問いは、これまで主に目が見えることを前提として考えられてきたものだと思います。「工芸」について様々な角度から探求を続ける遠藤氏と作品について話し合っていく中で、「視覚に障がいのある方を含めた様々な方とこの問いを共有することができないか」と思いながら準備を進めました。

美術作品、人間、視覚、生命の誕生のいずれにも、見えることが当たり前とされる世界では見過ごされてきた歴史が隠されています。絵画や身体が（視覚優位の）社会と接する前にある感触を感じ取っていただけたら幸いです。

武澤里映（当館学芸員）

## 遠藤薫 | Endo Kaori

1989年 大阪府生まれ  
2013年 沖縄県立芸術大学工芸専攻染織科卒業  
2016年 志村ふくみ主宰アルスシムラ卒業

### 主な展覧会歴

2016年 「クロニクル、クロニクル！」（CCOクリエイティブセンター大阪）  
2019年 「第13回 shiseido art egg」（資生堂ギャラリー／東京）  
2020年 「いのちの裂け目―布が描き出す近代、青森から」（国際芸術センター青森）  
2021年 「琉球の横顔―描かれた「私」からの出発」（沖縄県立博物館・美術館）  
2022年 「STILL ALIVE 国際芸術祭 あいち2022」（豊島記念資料館／愛知）  
2023年 「Osaka Directory 3 supported by RICHARD MILLE 遠藤薫」（大阪中之島美術館）  
「Kobe Re: Public Art Project」（KORPA特設会場／兵庫）

## 謝辞

本展の開催にあたり、下記の皆様より多大なるご協力を賜りました。ここに記して、深く感謝の意を表します。（敬称略）

安達祐美子  
今西公彦  
加藤巧  
河村優子  
シャロポア野口  
藤原久美子  
渡部宏和

アトリエみつしま  
神戸アイライト協会  
神戸大学海事博物館  
月光荘  
武山商店  
宮ノ北齋

2023年度コレクション展II 小金画  
美術の中のかたち―手で見る造形  
遠藤薫 眼と球

会期 | 2023年9月9日[土]-12月24日[日]  
会場 | 兵庫県立美術館 常設展示室4  
主催 | 兵庫県立美術館  
後援 | 兵庫県社会福祉協議会、  
神戸市社会福祉協議会  
協賛 | 公益財団法人伊藤文化財団、  
サンシティタワー-神戸  
（株式会社ハフ・センチュリー・モア）  
助成 | 公益財団法人神戸文化支援基金  
神戸文化支援基金  
協力 | 日本製麻株式会社、  
小泉製麻株式会社、AIRR

## 関連事業

11月19日[日] 午後3時-（約45分）  
学芸員によるガイドツアー  
※受付は午後2時30分から  
※定員20名  
※参加無料・先着順  
※介助の必要な方は、  
美術館（078-262-0909）まで  
お問い合わせください。  
※11月19日は関西文化の日につき  
コレクション展は無料でお入り頂けます。

※当館Webサイトにて、  
「これまでの「美術の中のかたち」一覧」と  
本シリーズが始まった時期にその趣旨をまとめた  
「フォーム・イン・アート」（増田洋、1989年8月）を  
公開しています。



左のQRコードより、  
音声読み上げをお聞きいただけます。  
（ナレーション 音読さん）

美術の中のかたち―手で見る造形  
遠藤薫 眼と球 リーフレット

編集・発行 | 兵庫県立美術館  
651-0073  
兵庫県神戸市中央区臨浜海岸通1-1-1  
撮影 | 高嶋清俊  
デザイン | 塩谷啓悟  
印刷 | 岡村印刷工業株式会社



兵庫県立美術館  
HYOGO PREFECTURAL MUSEUM OF ART